



早くも1年間の半分が過ぎてしまいました。能登半島地震から6ヶ月がたったということでもあります。復興は遅々として進まず、煩雑な手続きを経て、ようやく仮設住宅に入居しても孤立している方が多いそうです。「見守り隊」の訪問を受けた方が「話ができ、胸にたまっていたものがなくなった」と笑顔を見せたという新聞記事が記事が目にとまりました。傾聴は本当に大切です。

第12回総会報告

2024年5月17日(金) 岡谷市諏訪湖ハイツ



出席グループ 13
出席者数 67名 (社協職員4名含)
議長 傾聴みみずく 小口 幸彦 様



ご来賓

長野県健康福祉部 介護支援課介護人材係 係長 永田 浩靖 様
長野県社会福祉協議会 主任 元持 幸子 様
代表して永田様よりご挨拶をいただきました。
「長野県は人口が減少する一方寿命は延びており、超高齢化社会が進んでいる現在、傾聴活動に大いに期待しています。」
健康福祉部には、長年、会報「野原の歌」を長野県のホームページに掲載していただいています。

1号議案～5号議案を審議していただき、すべて承認していただきました。

●5号議案(年会費改定について)

審議の結果、2025年度より年会費は下記のように改定となります。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

<改訂後の年会費>

	会員1名につき	500円
例	会員10名のグループ	5,000円 500円 × 10人
例	会員15名のグループ	7,500円 500円 × 15人

改訂後の予想収入額・予想支出額については2024年度総会の議案書をご確認ください。



リーフレット

「傾聴活動ボランティアへのご案内」

各グループに100部ずつ配布しました。「リーフレットの活用ガイド」を参考に活用してください。研修部に在庫もありますので、必要な場合はご連絡ください。

リーフレット 「傾聴活動ボランティアへのご案内」活用ガイド

- グループ及び会員の皆様へ～傾聴活動している地域で～
 - ・社会福祉協議会、地域包括支援センター、行政(市役所、役場)の福祉部門などの冊子棚に置いていただけるようお願いする。
 - ・会員一人ひとりが、友人、知人などを傾聴ボランティアに誘うための案内書とする。

リーフレットと共に活用ガイド全文もグループに配布しています。詳細はそちらをご覧ください。ガイドラインの他にも、皆さんの創意工夫で効果的な活用をしていただけて嬉しいです。ご協力をお願いします。

研修会情報 「傾聴ボランティア養成基礎講座」

日時 2024年11月8日(金) 10:00~16:10
主催 富士見町社会福祉協議会
会場 富士見町コミュニティプラザ
講師 山田豊吉氏(日本ボランティア協会事務局長)

問合せ先

傾聴ボランティアやまぼうし 高山智江
TEL・Fax 0266-62-5301

話題提供 研修部

1. 東日本大震災ボランティア体験（宮城県南三陸町）
避難所の生活 避難所で聴いたこと 避難所の花
2. 能登半島地震 映像視聴
NHK ニュース「被災した方にどう接すれば」
SBC ニュース「長野県福祉チームの活動」
3. 災害時のこころのケア参考資料
*内閣府ホームページより
*東京都福祉保健局より
*日本傾聴ボランティア協会理事長鈴木絹英氏
「被災者等への傾聴で特に気をつけなければならないこと」

トークセッション

災害時こころのケア

傾聴ボランティアは
どのように関わるか



参加者から 寄せられた
感想 意見 思い（抜粋）

報告者の体験は、身に迫る思い。何時か自分達にも起こり得ることとして、普段の生活の中でもしっかりと心がまえする。災害を受けた方とは触れ合う機会は少ないが、常に気遣いする事が大切であって、傾聴では自己流で自己満足になっていないかを考える場となった。

協会の『被災者への傾聴で、気をつけなければならないこと』は普段の傾聴にも参考になり、グループの皆に伝え共有したい。

被災地の傾聴は、傾聴を目的とするのではなく被災された方々に寄り添い、必要とされるお手伝いをする事が最優先であり、その中で機会があれば被災者の方から、湧き出てくる思いをくみ取り、お話を聴くようにできればと感じた。

高齢の女性へのインタビューで、「今一番困っていることはどんなことですか?」と尋ねると、「話す人がいないとだよ」と答えた。これこそ“心の災害であり、傾聴の大切だ”と改めて感じた。

災害の現地の体験では、平素の傾聴とその気持ちはどう違うのか?聞きたい。

災害ボランティアに関わり、災害の後の家の片付けに加わった。⇒壊れた家の状態は解体した方が良いように思われたが、「姉妹家族のためにはどうしても残して置きたい」と、思う姿を見て、気持ちがよく分かった。「梅干しも捨てられない」と大切にしている姿を見て、今までの生きて来た思いは簡単に去ることは出来ないのだと感じた。

被災された方の傾聴は経験がなく不安。寄り添うことができるか心配。尻込みしてしまいそうだが、経験を重ね、気持ちに寄り添うことを学びたい。

普段の傾聴とはちょっと違うことは確かだが、災害に合った人たちへの気遣い、気持ちの持ち方をどうすれば良いか?を改めて感じ取ることが出来た。自分もなんとか関わりが出来るのかなと感じ取る機会になった。

タッピング・タッチは、初めて聞いた言葉。人と人が指先を通じて気持ちを柔らかく触れ合う、素晴らしい行為だ。機会があったらもう少し知りたい。



長野県傾聴ボランティア連絡協議会
代表 長谷川 昭
TEL FAX 0264-48-2133
携帯 09043981187
mail mr.kaeru77@ot.kiso.ne.jp
〒397-0201 木曾郡王滝村 4100-13



広報担当 弓削 淑子
TEL FAX 0266-74-1122
mail yugetora@po30.lcv.ne.jp
〒391-0115 諏訪郡原村原山17217-2199